

フェーズ4（慢性期：1カ月～3か月程度）

目的：安定した避難生活に向けた情報把握・伝達方法が構築される

	誰が	対象者	何を	どうやって
情報収集	避難所運営者	妊産婦	産科医療機関受診の有無 家族被災状況 自宅被災状況 心理的状況 妊娠経過、症状、心配事	呼びかけ 避難所掲示板 妊産婦コーナー・相談窓口 母子健康手帳確認 救護班と協力して体重・血圧測定・尿検査など 問診シート記入 SNS等使用できる電子媒体
情報提供	避難所運営者	妊産婦	地域保健センターの連絡先 支援物資の配布場所 感染予防 支援者(NPO,NGOなど)や域外避難支援情報 母子サロンなどの情報 長期的な生活支援情報	避難所掲示板 妊産婦コーナー・相談窓口の設置 チラシ ラジオやテレビを通じた呼びかけ 外部支援者とのコンタクト 医療機関ホームページ SNS等使用できる電子媒体
		自治体担当者	妊産婦情報を含めた名簿 現避難所情報 支援者(NPO,NGOなど)や域外避難支援情報	名簿の共有 妊産婦情報書の共有 携帯電話 避難所掲示板 使用できる電子媒体
		医療救護班 医療機関	妊産婦情報を含めた名簿 現避難所情報 支援者(NPO,NGOなど)や域外避難支援情報	名簿の共有 携帯電話 避難所掲示板 使用できる電子媒体

フェーズ5（中長期：3か月～）

目的：避難中の安定した生活基盤のための情報把握・伝達方法が確立される

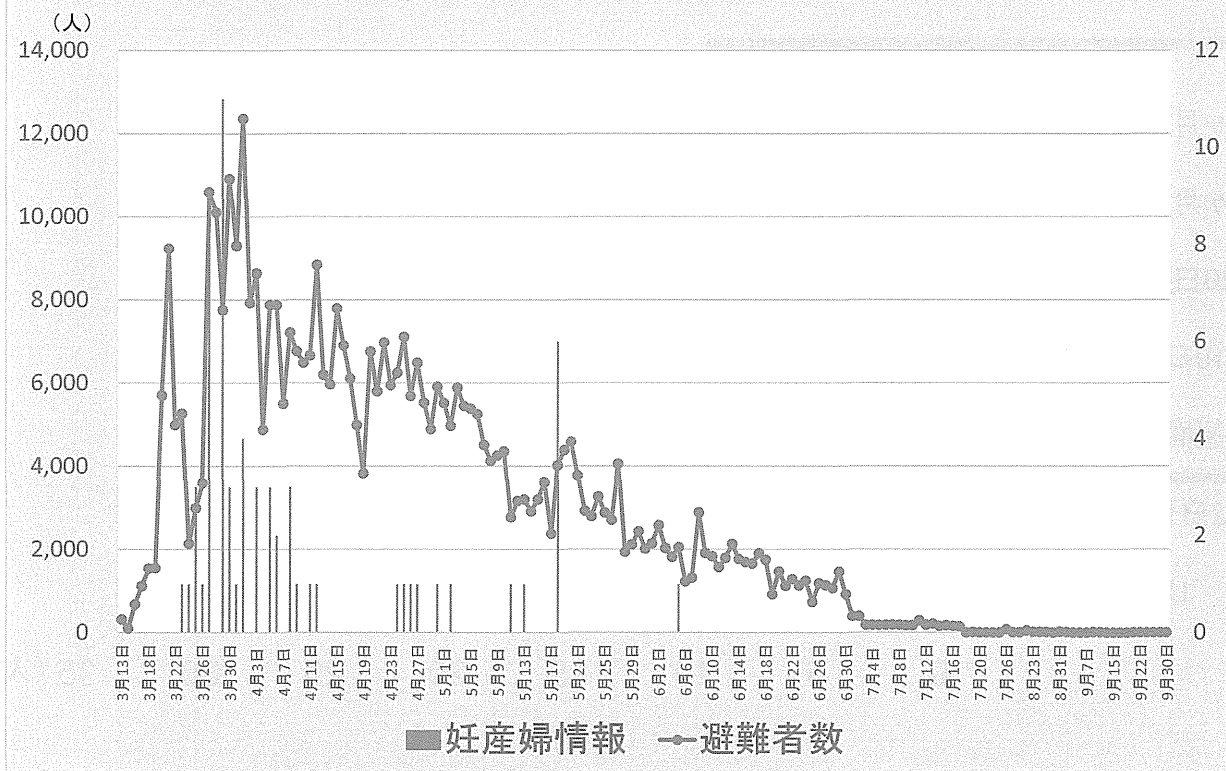
	誰が	対象者	何を	どうやって
情報収集	避難所運営者	妊産婦	産科医療機関受診の有無 家族被災状況 自宅被災状況 心理的状況	医療機関における通常診療
情報提供	避難所運営者	妊産婦	保健センターの連絡先 感染予防 母子サロンなどの情報 長期的な生活支援情報	掲示板・HP・ML
		自治体担当者	妊産婦情報を含めた名簿 現避難所情報 (食糧、水、電気、トイレ、睡眠環境、家族 同伴の可否)	名簿の共有
		産科医療機関	妊産婦情報を含めた名簿 現避難所情報 (食糧、水、電気、トイレ、睡眠環境、家族 同伴の可否)	名簿の共有

避難所における妊産婦の状況調査

石巻圏合同救護チームによる避難所データ (東北大学病院 石井 正先生提供 状況分析報告書から)

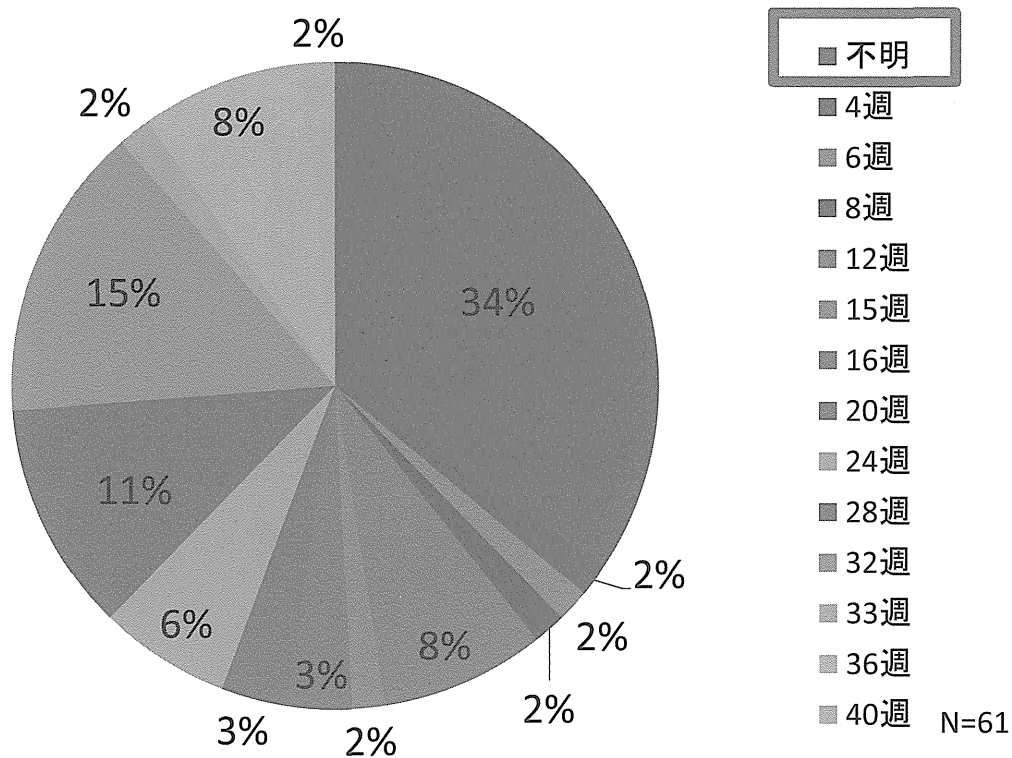
- 2011.3.12 支援日赤救護班による散発的な避難所巡回開始
- 2011.3.17 300か所以上の避難所に対し、アセスメントシートによるローラー作戦開始
- 2011.3.20 石巻圏合同救護チームがスタート
- 2011.4.10 エリア1(蛇田地区) 避難所8か所 避難者839名
 エリア2(石巻北・専修大学地区) 避難所4か所 避難者469名
 :
 エリア8(東松島市) 避難所63か所 避難者5,375名
 :
 エリア15(石巻ロイヤル救護所) 避難所1か所 避難者5名
- 2011.5.19 巡回避難所数:164か所 総避難者数 9,548名
 (参考:発災直後⇒避難所313か所、総避難者数41,990名)
- 2011.6.27 巡回避難所数:46か所 総避難者数 3,399名

石巻圏避難所における避難者数の推移



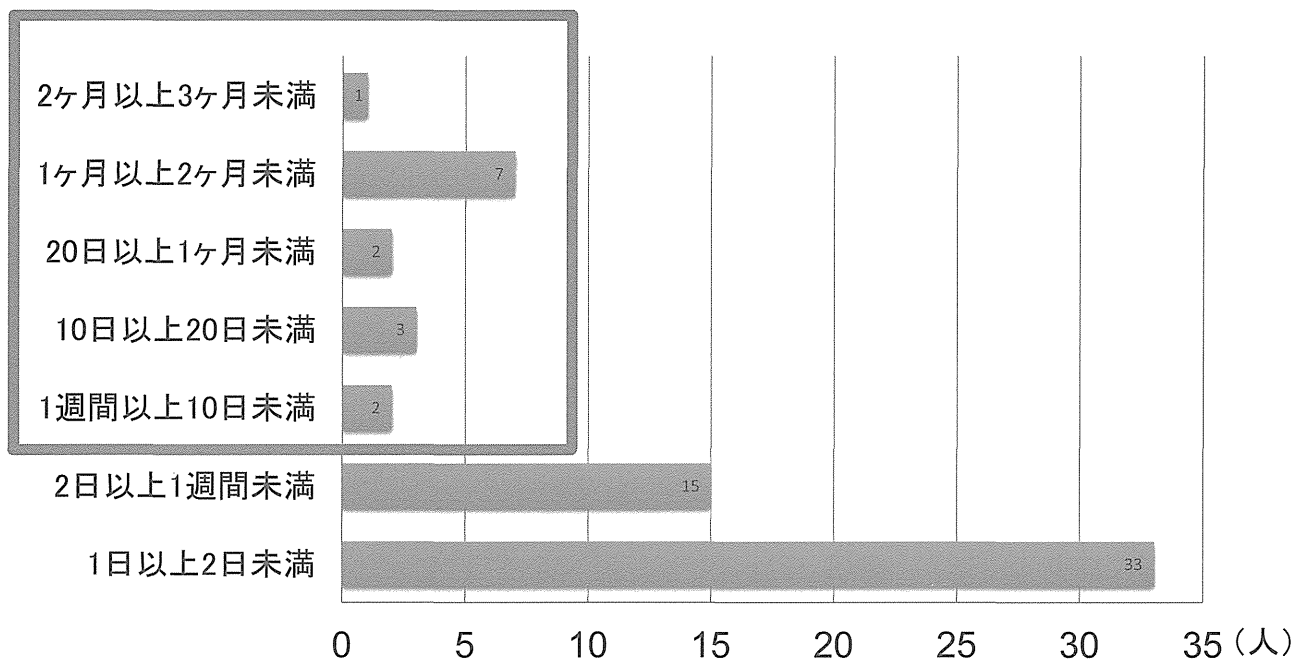
基礎資料: 石巻圏合同救護チーム(東北大学病院 石井 正先生 提供)

避難所における妊婦の妊娠週数



基礎資料: 石巻圏合同救護チーム(東北大学病院 石井 正先生 提供)

妊婦の避難所滞在日数



基礎資料:石巻圏合同救護チーム(東北大学病院 石井 正先生 提供)

災害時周産期医療統計調査

宮城県における震災前後の周産期予後に関する研究

解析対象：

宮城県内分娩取扱い施設（46施設）における助産録データ
2010年、および2011年における1月1日－12月31日の分娩症例

収集情報：

分娩年月日
分娩時刻
在胎週数
分娩様式（経膈分娩、吸引分娩、帝王切開術など）
分娩時出血量

新生児情報：性別

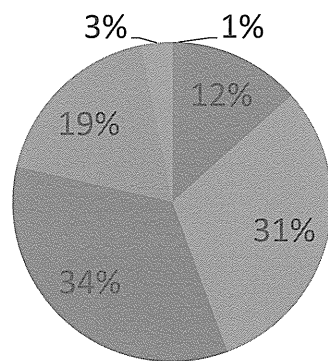
体重

アプガースコア（1分値/5分値）

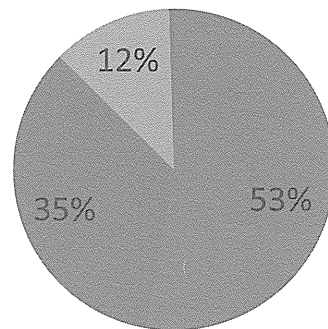
出生時異常所見

東北大学東北メディカル・メガバンク機構倫理委員会承認（2014－21）

基礎特性 (母体)

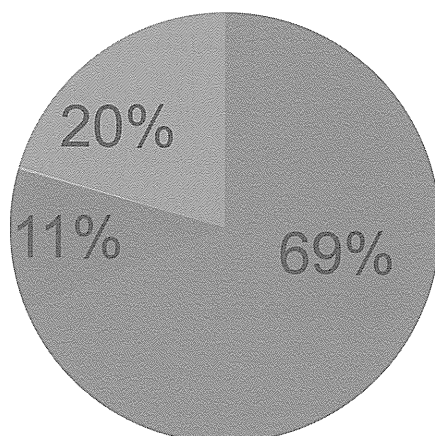


- <20 歳 (%)
- 20-24.9 歳 (%)
- 25-29.9 歳 (%)
- 30-34.9 歳 (%)
- 35-39.9 歳 (%)
- ≥40 歳 (%)



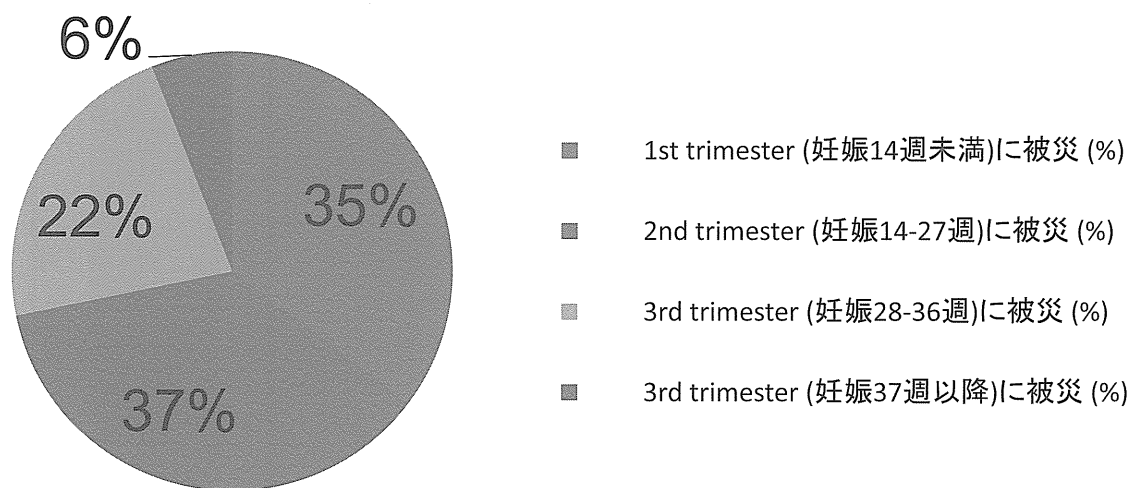
- 1次医療機関 (%)
- 2次医療機関 (%)
- 3次医療機関 (%)
- 助産院 (%)

基礎特性 (分娩様式)

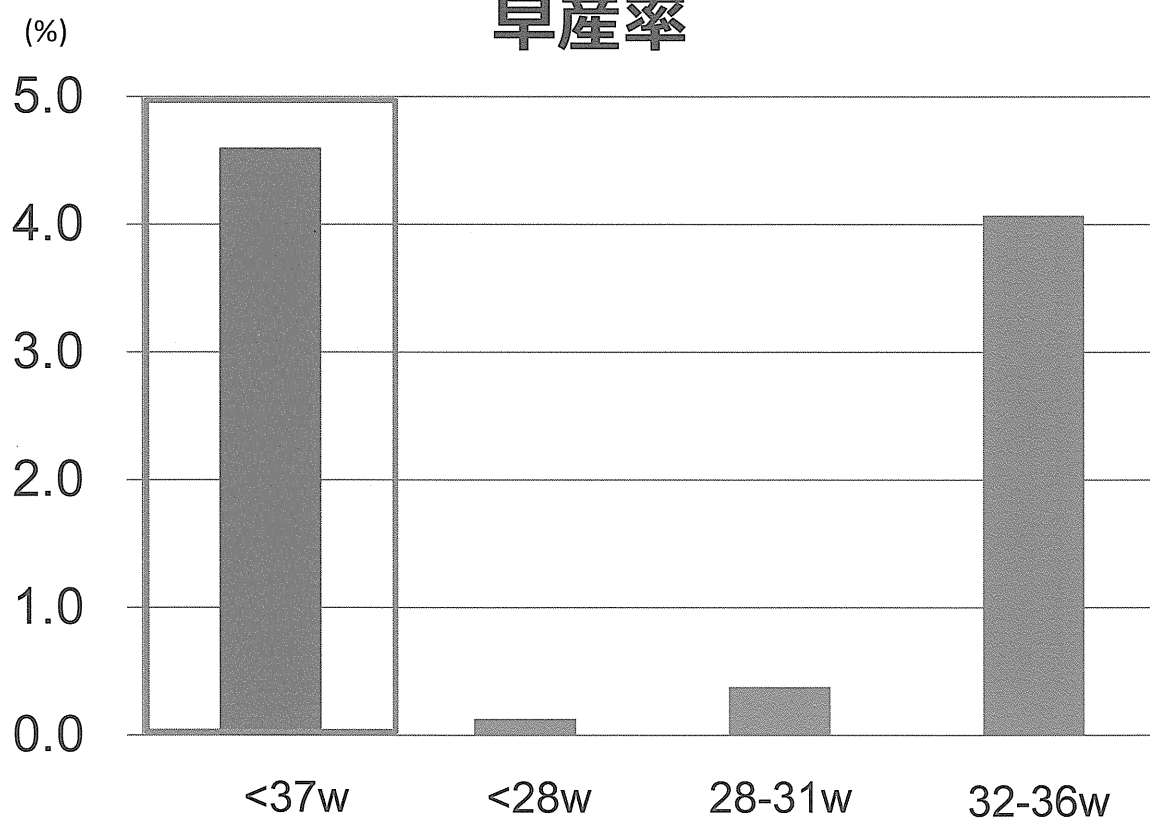


- 自然分娩 (%)
- 吸引分娩 (%)
- 鉗子分娩 (%)
- 骨盤位牽出術 (%)
- 帝王切開分娩 (%)

基礎特性（被災時期）



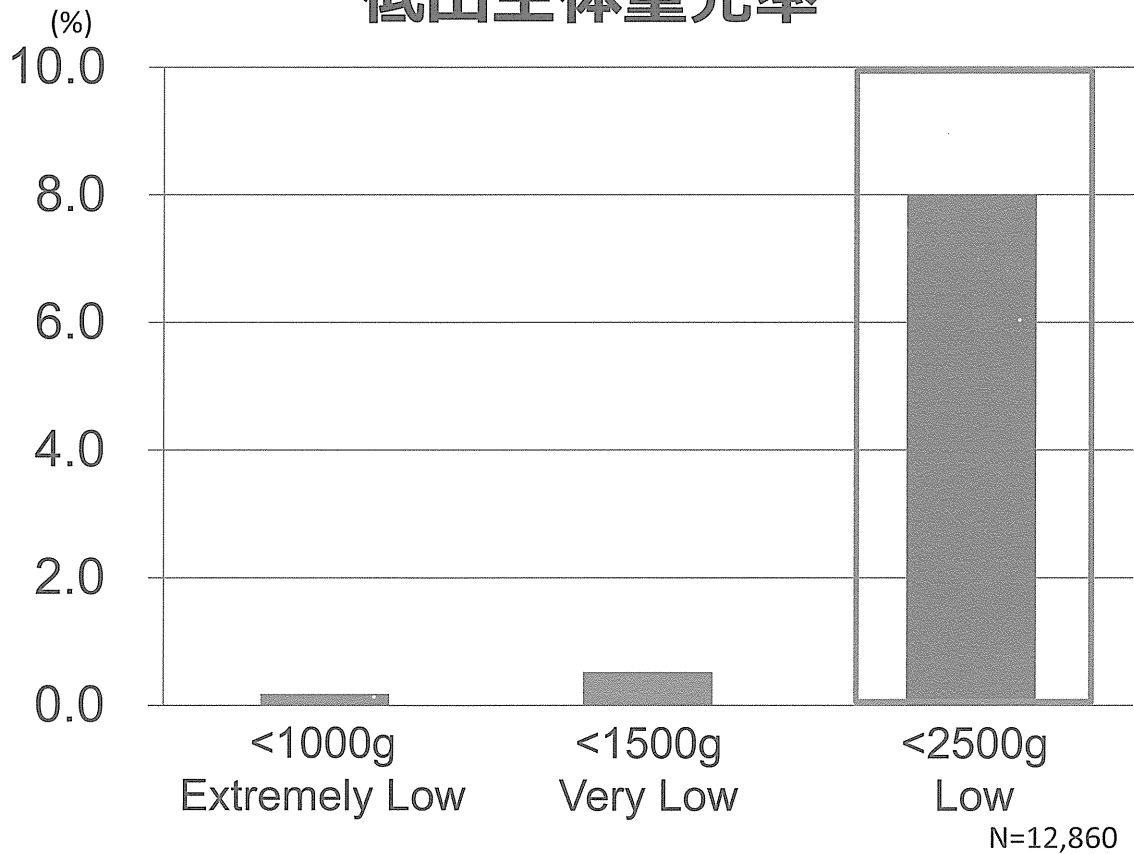
早産率



* 2012年早産率は、5.4%（宮城県周産期医療統計）

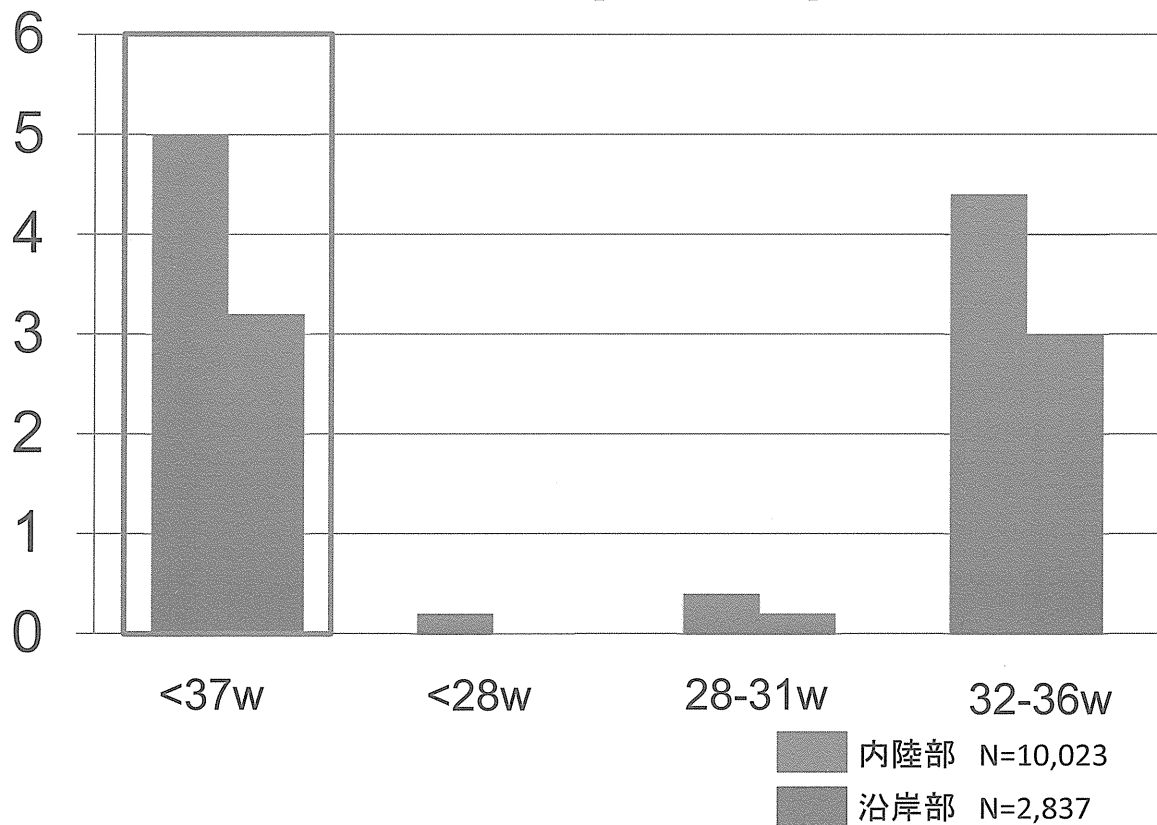
N=12,860

低出生体重児率

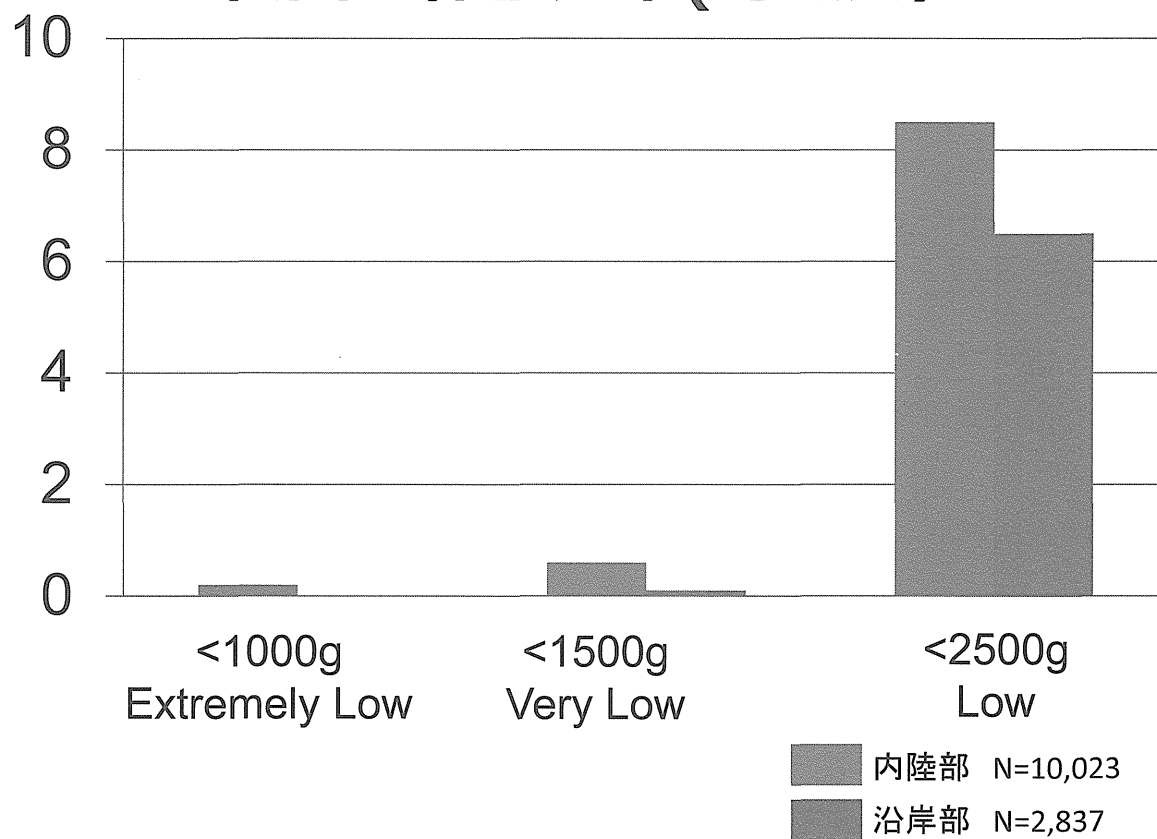


* 2012年低出生体重児率は、9.3%（宮城県周産期医療統計）

早産率（地域別）



低出生体重児率(地域別)





第3回 国連防災世界会議 パブリックフォーラム

お産を守り、 輝く未来へ

みなさんと一緒に
お産と地域のミライを
考える双方向の
イベントです



母と子を守る危機管理

— 地域医療・保健における創造的協働による新しい取り組み

Emergency Preparedness in Maternal and Child Care
- Reconstructing by creative collaboration with community medicine
and public health care system

2015.3.15 日 17:30 - 19:30

会場 | TKPガーデンシティー仙台 ホールD (AER30階)



ファシリテーター【前半】

吉田 穂波

国立保健医療科学院 主任研究官

大震災では産婦人科医として妊産婦や新生児を救護。現在、政策提言に関わるなど国際的に活躍し、母子保健向上に尽力している。4女1男の母。



ファシリテーター【後半】

新井 隆成

社会医療財団聖仙会 恵寿総合病院 家族みんなの医療センターセンター長、山梨大学医学部 臨床教授、ALSO-Japan 代表

国立病院機構災害医療センター勤務の2000年より、災害弱者としての妊産婦支援を研究。災害時妊産婦支援研修のシラバス作成を目指す。



講演1 菅原 準一

東北大学 東北メディカル・メガバンク機構
地域医療支援部門 副部門長、母児医学分野 教授

大震災時にも大学病院で宮城県のお産を守るために奮闘。地域社会の未来のために、あらたな地平を切り拓く。



講演2 葛西 圭子

公益社団法人 日本助産師会 専務理事

臨床現場を退いてなおいかなる時も「お産」に取り組む「助産師」



講演3 小川 ゆみ

一般社団法人マザー・ウィング理事

大震災後、子育て支援拠点にて親子の心に寄り添い、心のケア専門家へつなく活動を実施。災害から親子を守るために、一緒に考え、歩んでいける支援者でありたい。

【ご参加お申込み】

先着 200名・参加費無料

ご参加ご希望の方は、お名前・年齢・ご職業を明記の上、メールまたは FAX にてお申し込みください

【お問い合わせ】

東北大学 東北メディカル・メガバンク機構 地域医療支援部門
母児医学分野 菅原研究室 相澤

TEL 022-273-6283

FAX 022-273-6410

Mail boji@megabank.tohoku.ac.jp

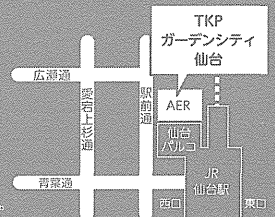


【アクセス】

TKPガーデンシティ仙台
仙台市青葉区中央1丁目3-1 AER30階

- ・仙台駅西口徒歩2分
- ・地下鉄南北線「広瀬通駅」より徒歩5分
- ・JR仙石線「あおば通駅」より徒歩5分

※ JR仙台駅・ペDESTリアンデッキより直結。



【主催】

- ・平成26年度厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）「東日本大震災被災地の小児保健に関する調査研究」班
研究代表者 呉 繁夫 分担研究者 菅原 準一
- ・東北大学 東北メディカル・メガバンク機構

第3回国連防災世界会議 パブリック・フォーラム

「お産を守り、輝く未来へ」

母と子を守る危機管理

—地域医療・保健における創造的協働による新しい取り組み

ファシリテーター 吉田 穂波 国立保健医療科学院 生涯健康研究部

母子保健担当 主任研究官

新井 隆成 恵寿総合病院 家族みんなの医療センター
センター長

開会の辞 岡村 州博 (東北大学名誉教授、東北公済病院院長)

■17:30～17:50 地域社会が輝くため、どのようにお産を守ったらよいか。
菅原 準一 東北大学 東北メディカル・メガバンク機構
地域医療支援部門 母児医科学分野 教授

■17:50～18:10 妊産婦さんへ、いかに情報を伝えるか、情報収集するか。
葛西 圭子 公益社団法人日本助産師会 専務理事

■18:10～19:10 ワークショップ：チームのネットワーク力を高めるために。
新井 隆成、吉田 穂波

■19:10～19:30 妊産婦・子育て世代の震災時の困難な状況、それからの取り組み。
小川 ゆみ 一般社団法人マザー・ウイング 理事

閉会の辞 菅原 準一

●主催

- 平成26年度厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）
「東日本大震災被災地の小児保健に関する調査研究」班
- 東北大学 東北メディカル・メガバンク機構



災害時の妊産婦や乳児への各都道府県の対応について調査結果が掲載されました。研究分担者：菅原 準一

妊産婦対応策 7割「なし」

東北大調査 災害時の都道府県

災害時の妊産婦や乳児への対応について、全国47都道府県の約7割は、具体的な取り決めを持たないことが、東北大の菅原準一教授（東北メデイカル・メガバンク機構・地域医療）

らの調査でわかった。東日本大震災では、妊産婦や新生児の搬送先探しや支援がうまく進まなかったが、震災から4年たっても、その教訓が十分に生かされていない実態が明らかにな

った。

アンケートは昨年8月に行い、全都道府県から回答があった。災害時の母子保健や産科医療対応に関する具体的な取り決めが「なし」と回答したのは33自治体（70・2%）だった。

自治体内での対応を検討していない自治体が39、隣接する自治体との広域連携を検討していない自治体は43で9割を超えていた。東日本大震災では、震災後2か月間で、救急搬送や避難により、予定とは異なる医療機関で出産した妊婦が217人に及んだ。行政の通信機能が停止し、避難所のどこに妊産婦や新

生児がいるかなどの情報が共有されず、支援が滞った。

菅原教授は「災害弱者である妊産婦や新生児を守ることは、災害でダメージを受けた地域社会の未来を守ることに。都道府県は災害対応を普段から話し合い、地域の連携力を上げてほしい」と呼びかけている。

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者指名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
田中総一郎	医療と生活、両面からの支援	田中総一郎、菅井裕行、武山裕一	重症児者の防災ハンドブック	クリエイツかもがわ	京都	2012	10-27
落合達宏	拓桃医療療育センターの経験	田中総一郎、菅井裕行、武山裕一	重症児者の防災ハンドブック	クリエイツかもがわ	京都	2012	34-47

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Tanaka S	Issues in the support and disaster preparedness of severely disabled children in affected areas.	Brain Dev	35(3)	209-213	2013
Nakayama T, Tanaka S, Uematsu M, Kikuchi A, Hino-Fukuyo N, Morimoto T, Sakamoto O, Tsuchiya S, Kure S	Effect of a blackout in pediatric patients with home medical devices during the 2011 eastern Japan earthquake.	Brain Dev	36(2)	143-147	2013
田中総一郎	被災地での重症心身障害児支援	日本小児科医会報	43	95-100	2012
田中総一郎	災害と子どもたち、笑顔を守り未来を気づくためにできること - 小児在宅医療における災害への備え	ネオネイタルケア	25(5)	78-81	2012
田中総一郎	東日本大震災と障害児医療	障害者問題研究	40(2)	44-51	2012
田中総一郎	重症心身障害児者への援助と支えてくれた言葉	小児科臨床	65(10)	2131-2136	2012
田中総一郎	東日本大震災の中での重症心身障害児者支援活動報告	両親の集い	666	2-16	2012
奥山真紀子	トラウマを理解し、予防する周囲の関わりが大切 - 震災が子どもに与えた影響	灯台	620	83-85	2012
奥山真紀子	子どものPTSD対応とそのケア	世界の児童と母性	73	16-19	2012
奥山真紀子	子どもにみられる災害ストレス反応の特徴と対応方法	Pharma Medica	30	19-23	2012
奥山真紀子	東日本大震災に被災した子どもの心とそのケア	月刊福祉	95	42-43	2012
奥山真紀子	災害が子どもに及ぼす精神的な影響とそれに対する支援	保育界	556	20-21	2012
本間博彰 他	東日本大震災の子どもの心のケアについて (報告)	児童青年精神医学とその近接領域	53(2)	128-136	2012
本間博彰	「被災地」を子どもたちとともに生きて-支援者の思いと実践	世界の児童と母性	73	37-41	2012
Wada A, Kunii Y, Matsumoto J, Itagaki S, Yabe H, Mashiko H, Niwa S	Changes in the Condition of Psychiatric Inpatients After the Fukushima Disaster.	Fukushima J Med Sci	59(1)	39-42	2013

Yasumura S, Hosoya M, Ymashita S, Kamiya K, Abe M, Akashi M, Kodama K, Ozasa K, Fukushima Health Management Suravey Group	Study protocol for the Fukushima Health Management Survey.	J Epidemiol	22(5)	375-383	2012
矢部博興、三浦至、板垣俊太郎、勝見明彦、志賀哲也、貝淵俊之、樋代真一、安藤海香、伊瀬陽子、大口春香、浅野聡子、太田貴文、高橋高人、及川祐一、本谷亮、大川貴子、加藤郁子、大竹真裕美、増子博文、中山洋子、丹羽真一	大震災および福島第一原発事故後のメンタルケア報告 福島県沿岸地域における精神医療の現状と今後の課題	Surgery Frontier	18(4)	353-356	2011
和田明、國井泰人、松本純弥、板垣俊太郎、三浦至、増子博文、矢部博興、丹羽真一	原子力発電所事故後の福島県における精神科新入院の状況	臨床精神医学	40(11)	1423-1429	2011
八木淳子	東日本大震災における子どもの心のケア	トラウマティック・ストレス	10(2)	83-88	2013
八木淳子	地域に根差したこころのケア-宮古子どもこころのケアセンターのとりくみから	LD研究	22(1)	22-27	2013
押田ふじ子、関 弘昭、久保田桜、松本 敦、葛西健郎、千田勝一	NICU災害時対応マニュアル	Neonatal Care	26	102-114	2013
Iwata O, Oki T, Ishiki A, Shimanuki M, Fuchimukai T, Chosa T, Chida S, Nakamura Y, Shima H, Kannno M, Matsuishi T, Ishiki M, Urabe D	Infection surveillance after a natural disaster: Lessons learnt from the Great East Japan Earthquake of 2011	Bull World Health Organ	91	784-789	2013
田中総一郎	東日本大震災被災地の重い障害のある子供への支援 (一)	肢体不自由教育	208	56-57	2013
田中総一郎	東日本大震災被災地の重い障害のある子供への支援 (二)	肢体不自由教育	209	56-57	2013
田中総一郎	東日本大震災で大事に守り育てられたいのち	チャイルドヘルス	16(7)	56-57	2013
千田勝一、瀧向 透、石川 健、三浦義孝、岩田欧介、松石豊次郎、江原伯陽、中村安秀	岩手県被災地における小児保健医療体制の構築と課題	小児保健研究	73(2)	201-203	2014
千田勝一、瀧向 透	岩手県における大震災後の小児医療総括. 日本小児科学会企画戦略委員会災害対策ワーキンググループ報告	日本小児科学会雑誌	118	1768-1770	2014

千田勝一	東日本における初期対策と課題. 日本小児科学会企画戦略委員会災害対策ワーキンググループ報告	日本小児科学会雑誌	118	1776-1783	2014
Hidekazu Nishigori, Junichi Sugawara, Taku Obara, Toshie Nishigori, Kineko Sato, Takashi Sugiyama, Kunihiro Okamura, Nobuo Yaegashi	Surveys of postpartum depression in Miyagi, Japan, after the Great East Japan Earthquake	Archives of Women's Mental Health	Vol. 17	579-581	2014
Fujiwara T, Yagi J, Homma H, Mashiko H, Nagao K, Okuyama M;GEJE-FC study team	Clinically significant behavior problems among young children 2 years after the Great East Japan Earthquake.	PLOS One	9(10)	e109342	2014
増子博文	福島県の災害と子どもへの支援	トラウマティック・ストレス	12(1)	22-27	2014
田中総一郎	障害のある子どもたちの防災対策～なんとでも生きのびましょう～	はげみ	359	5-11	2015
Hiroko Matsubara 他 13	Design of the Nationwide Nursery School Survey on Child Health Throughout the Great East Japan Earthquake	Journal of Epidemiology	26(2)	98-104	2016
石川 健, 千田勝一	災害から子どもたちをどう守るか：危機管理の観点から.	チャイルドヘルス	18	57-59	2015
瀧向 透, 大木智春, 石川 健, 千田勝一, 三浦義孝, 江原伯陽, 岩田欧介, 松石豊次郎, 和田和子, 中村安秀	東日本大震災（2011）の被災地におけるロタウイルスワクチン無料接種事業の効果.	日本小児科学会雑誌	119	1087-1094	2015
井田孔明, 清水直樹, 奥山真紀子, 呉 繁夫, 田中総一郎, 田中英高, 田村正徳, 千田勝一, 中村安秀, 瀧向 透, 桃井伸緒, 細矢光亮, 玉井 浩	東日本大震災での経験をもとに検討した日本小児科学会の行うべき大災害に対する支援計画の総括.	日本小児科学会雑誌	119	1159-1178	2015
Takeo Fujiwara, Rie Mizukil, Takahiro Miki, ClaudeChemtob	Association between facial expression and PTSD symptoms among young children exposed to the Great East Japan Earthquake: A pilot study	Frontiers in Psychology	6	1534	2015

